

第3章

目指すべき将来都市像

第3章 目指すべき将来都市像

本章では、本市の現状と課題を踏まえ、本計画が目指すべき将来都市像として、その方向性を示した「都市づくりの基本方針」や、構造的な考え方を示した「都市の骨格構造」について整理しています。

3-1 都市づくりの基本方針

(1) 都市づくりの基本方針

都市計画マスタープランの考え方を踏まえつつ、本計画で軸となる「都市機能誘導」、「居住誘導」、「公共交通ネットワーク」の3つの視点により基本方針を整理しています。

都市機能誘導

都市づくりの基本方針1

本市全体の魅力と活力を高め、 生活利便性の維持・向上に資する拠点の形成

- 横須賀中央駅周辺等の都市拠点では、本市全体を牽引する拠点として、市街地再開発事業等の動きと連動して多様な都市機能の誘導や環境整備を行う等により本市の価値を高め、中心市街地として市内外から吸引力のある拠点形成を図ります。
- 追浜駅や京急久里浜駅周辺の地域拠点では、市街地再開発事業や都市公園の再整備等を契機として、地区に求められる都市機能を誘導することで活気ある拠点形成を図ります。
- その他の地域拠点等においても、地域住民にとって必要性の高い都市機能の集約を図ることにより、日常生活の利便性を高めていきます。
- これら本市の主要な拠点における取組を通じて、都市の魅力を創造することにより、様々な交流を創出し、本市の「稼ぐ力」を再興させていきます。

居住誘導

都市づくりの基本方針2

地区特性を活かした適切な居住誘導による 多様な暮らしの場の提供

- 地形的な制約等に基づきコンパクトに形成されてきた高密度な居住地について、人口減少下においても、その規模を維持すべく、居住誘導を推進していきます。
- そのためには、既存の居住地各地区（駅周辺の都市型住宅、良好な都市インフラを有した低層住宅地、海を間近に感じるリゾート感のある住宅、駅付近等の利便性の高い箇所にもありながらも特徴ある雰囲気と景観を持つ谷戸地域等）が有する個性と魅力を再認識した上で、各地区での居住ニーズに応じた居住誘導施策を展開することにより需要の掘り起こしを行い、様々なライフスタイルを受け入れることができる魅力ある都市を目指します。
- 災害リスクに対しては、対策工事等のハード面や避難体制等のソフト面により対応しながら、安全・安心にも配慮した居住誘導を推進していきます。

公共交通ネットワーク

都市づくりの基本方針3

拠点と居住地を結ぶ利便性の高い 公共交通ネットワークの充実

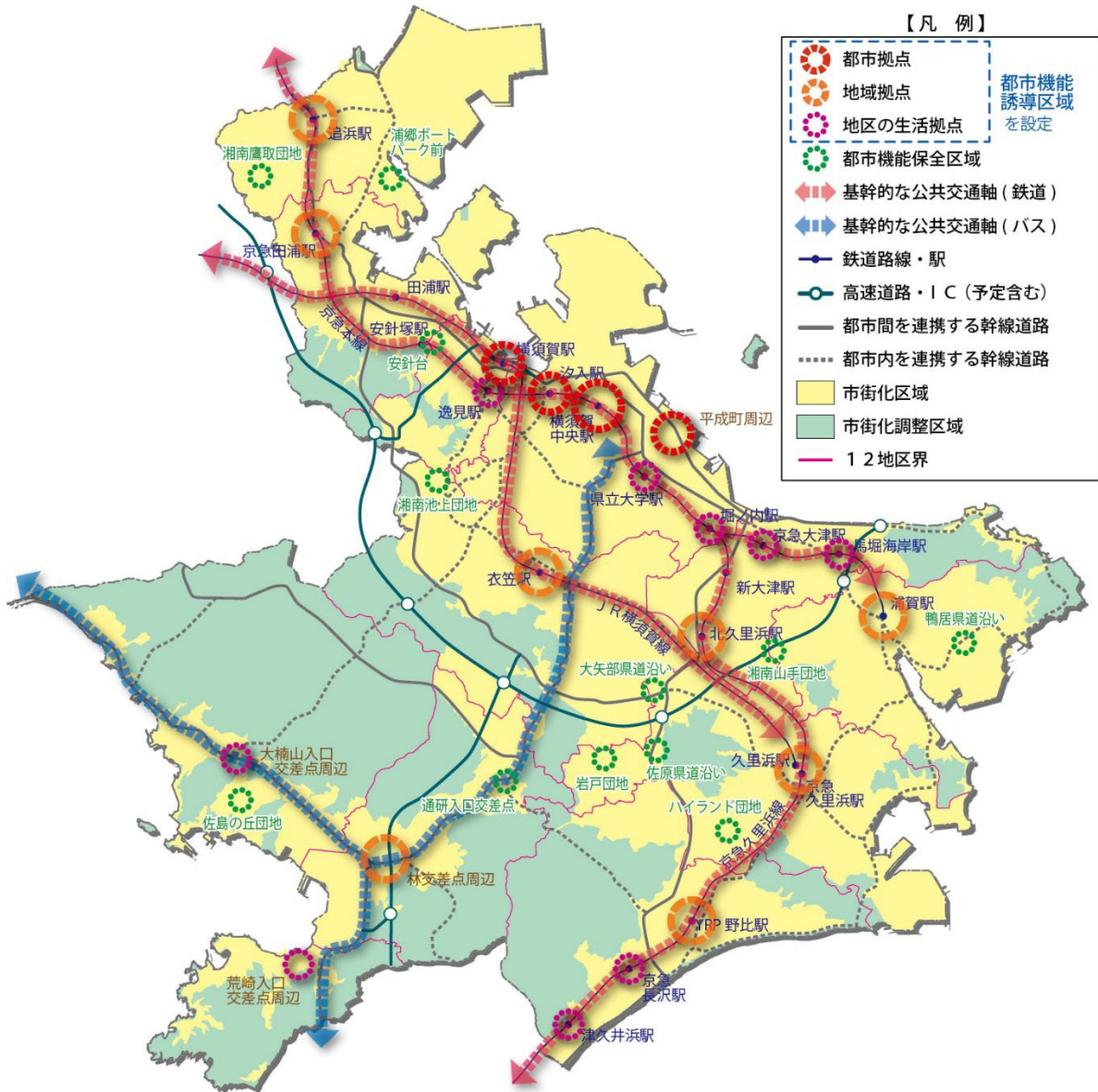
- 都市マスが目指す拠点ネットワーク型の都市構造を実現すべく、人口減少下においても、本市の強みである都市の骨格として整備されている鉄道・バスの公共交通網の維持に努めつつ、拠点と居住地を結ぶ鉄道・バス交通については、交通事業者と連携を図りながら、定時性・速達性の向上等、利便性の高い公共交通サービスの提供に向けた取り組みを進めます。
- 鉄道空白地域である西地域等においては、中心市街地や隣接市町と繋がる貴重な移動手段として、バス交通が担う役割は大きいため、人口減少で利用者数が減少しない様、それら路線の利便性向上等の取り組みを優先的に検討していくものとします。

3-2 目指すべき都市の骨格構造

(1) 目指すべき都市の骨格構造

本計画が目指すべき都市の骨格構造は以下のとおりです。

◆本計画が目指すべき都市の骨格構造



(2) 拠点等の設定箇所

本計画の拠点等の設定箇所は以下のとおりです。

◆拠点設定箇所（一覧）

【都市計画マスタープラン】

都市拠点	①横須賀駅周辺 ②汐入駅周辺 ③横須賀中央駅周辺 ④平成町周辺の中心市街地
------	--

地域拠点	①追浜駅周辺 ②京急田浦駅周辺 ③衣笠駅周辺 ④北久里浜駅周辺 ⑤浦賀駅周辺 ⑥京急久里浜駅周辺 ⑦YRP野比駅周辺 ⑧林交差点周辺の拠点市街地
------	---

地区の生活拠点	①上記以外の駅の周辺 ②団地のセンター地区 ③店舗等の便利施設の集積する地区
---------	--

【立地適正化計画】での拠点設定箇所



(i) 12地区毎の生活圏の核や、既存の施設集積状況を考慮して選定。都市機能誘導区域を設定し、施設の誘導・維持を図っていく。

(ii) 現状の施設立地状況や地区特性等を考慮して選定。本市独自の都市機能保全区域を設定し、施設の維持を図っていく。

都市機能保全区域	①湘南鷹取団地 ②浦郷ボートパーク前 ③安針台 ④湘南池上団地 ⑤鴨居県道沿い ⑥大矢部県道沿い ⑦湘南山手団地 ⑧佐原県道沿い ⑨岩戸団地 ⑩ハイランド団地 ⑪通研入口交差点 ⑫佐島の丘団地
----------	---

(3) 基幹的な公共交通軸の設定

本市は、市内東側を中心に鉄道網が充実しており、起伏の多い地形や西地域での鉄道空白地域の存在等に伴うバス需要の高さから、市域全域でのバス交通網が他都市と比べて充実した状況にあると言えます。

その状況を踏まえ、将来的な都市の骨格構造における基幹的な公共交通軸を以下のとおりとします。

《鉄道》

- ◆本市には、京急線（本線・久里浜線）とJR横須賀線の2事業者3路線が通っており、市内外への移動における市民の移動手段として、重要な役割を担っています。
- ◆これらは、北・東・南地域の各拠点をつなぐ形で、拠点間の移動を可能とする移動手段となっています。
- ◆輸送力の維持と共に、定時性・速達性に優れた鉄道は、「基幹的な公共交通軸（鉄道）」に位置づけて、維持を図ります。

《バス》

- ◆西地域から衣笠十字路・横須賀中央駅方面、三浦市方面、逗子市・葉山町方面へつながるバス路線は、特に必要性・重要性が極めて高いため、「基幹的な公共交通軸（バス）」に位置づけて、利便性の向上を図る施策を展開します。
- ◆その他の市域全域で整備されているバス交通網については、「鉄道駅と丘陵地の住宅団地を結ぶ路線」、「鉄道駅と業務地を結ぶ路線」、「鉄道駅と観光地を結ぶ路線」等、様々な移動のニーズに応じて運行されており、居住人口や交流人口の減少に伴う路線見直し・廃止とならない様、交通事業者と連携しながら、維持を目指します。

◆基幹的な公共交通軸

